

# クルリンと ほしぞらさんぽ 9月号



## 夏は残念が多かった？

夏休みこそほしぞらさんぽと思っていたけれど、昼間は雲一つない青空なのに、夜になると雲が出たり、台風7号が一番いい時期に来てしまったり、星空どころではありませんでした。ざんねん。でも秋は次第に日暮れも早くなり、空もきれいになっていきますから、期待しましょうね。

## 月の観察をしよう

夏にできなかった月の観察をしましょう。9月初めと9月の後半が月の観察に適しています（下の月の満ち欠けの図を参考にしてください）。

9月29日の満月は「**中秋ちゅうしゅうの名月**」と呼ばれて、昔からお月見をする習慣しゅうかんがありました。昔の暦こよみでは8月から10月が秋と決まっています。「8月を初秋、9月が中秋、10月は晩秋ばんしゅう」と秋を3つに分けていたのですが、その中秋で秋の真ん中ということです。

7月・8月よりは少し月が高くなって縁側から見たりするのにちょうどいい高さに。ということは月の動きをカメラに写すにもちょうどいい高さになります。スマホをかまえる時には画面が横長になるようにかまえましょうね（横位置）。1時間おいて再びパチリ、月がどちらへどれだけ動いたか分かる写真を撮って、お友達と見せ合みましょう。満月だけでなく、月齢4から満月まで、いつでもいい写真になるはずですよ。

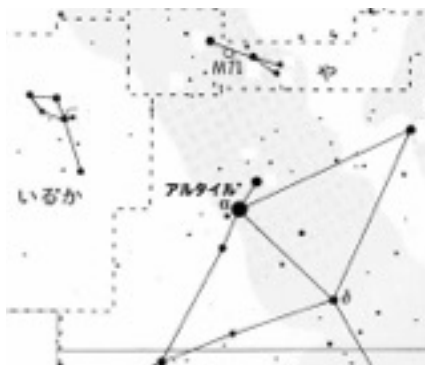
スマホのカメラでも、ズームアップすると月面のウサギの模様が映るかもしれませんよ。カメラ（スマホ）がぶれないように、しっかり固定して撮りましょう。

## まだ夏の星座

月の満ち欠けの図を見ると、9月は中ごろがほしぞらさんぽにぴったりのようですね。

星空は秋？かと思ったら、まだ夏の**大三角（こと座、わし座、はくちょう座）**が天頂にがんばっていますし、暗い空ならば**天の川**も中天にかかっているのが見えるでしょう。夏休みのざんねんを取り返せますね。

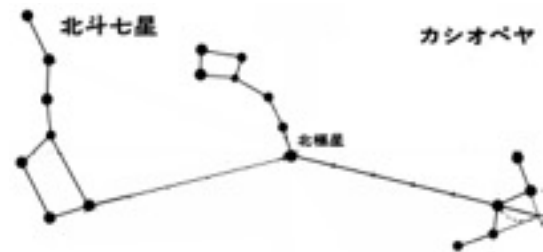
ほぼ天頂にあるので見る姿勢



が苦しいけれど、**わし座**のそばに見える小さな二つの星座・**いるか座**と**や座**を双眼鏡で見てくださいね。とてもかわいいミニ星座ですよ。

大きな星座の**さそり座**は、地上に近いので全体は見えないかもしれませんが、形が分かりやすいので探してみましょうね。その時には**いて座**の**南斗六星なんとうろくせい**が手がかりになります。南斗六星は、ほぼ南の、低い空に、ひしゃくのような形に並んでいますよ。

次は北を向いて見上げてみましょう、左手（西側）に**北斗七星**が、右手（東側）には**カシオペヤ座**が、図のように**北極星**をはさんで見えているはずですよ。北斗七星はくっきりして見つけやすいけれど、カシオペヤ座の方は少し暗く、ことに



東の低い空にあるときは見つけにくいので、よくよく見てね。

## 秋の星座がのほります

まず見つけやすいのは東の空の**ペガサス座**の四辺形です。大きな四角形が見えましたか。この四辺形の中は星が少ないため、四辺形として見つけやすいのです。双眼鏡で夏の**大三角**のあたりを見ると星が多く、**ペガサス**の**四辺形**の中は星が少ないことが分かると思いますよ。

北斗七星とカシオペヤ座の間、**はくちょう座**の近くのほぼ真北の高い空には**ケフェウス座**がいるのです



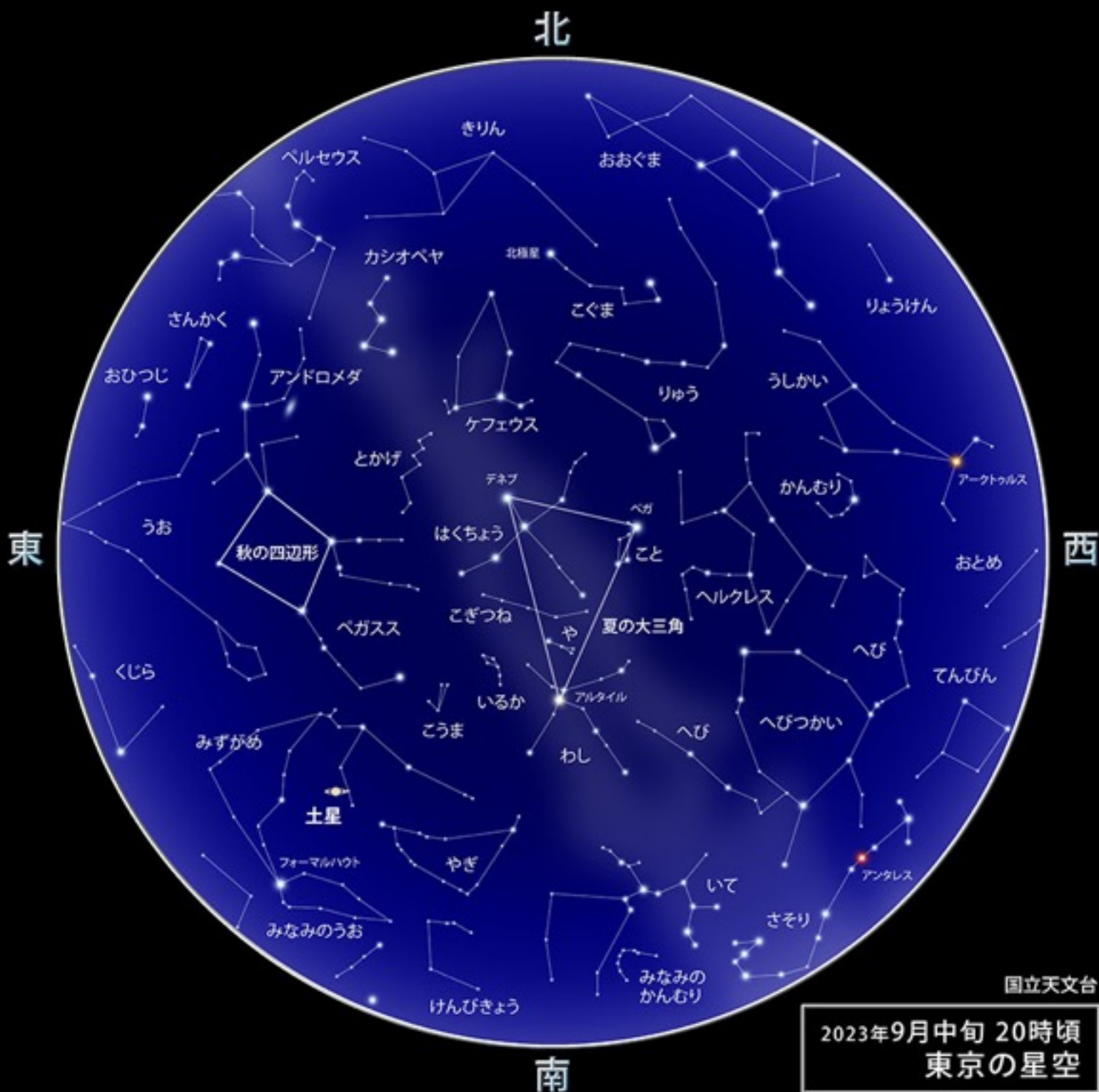
が、あまり知られていない星座ですし暗い星ばかりの星座なので、伊勢原の空では星図と見比べながらじっくりと探してみてください。

カシオペア座とペガサスの四辺形の間には**アンドロメダ座**が見えていますが、アンドロメダ座の説明は来月号で。

## 土星

秋の空には1等星が少なく、だから頭上から西の空に比べると東の空は寂しくなっていますね。ところが、星図にない明るい星が南東の低い空に

輝いています。星図になくて明るいとなれば、それは惑星ですね。そう**土星**が輝いているのです。12月頃までは見えていて、見える場所・方角が次第に変化していきます。ぜひ観察を続けてみましょう。スマホを横位置にして、地上の景色とあわせて写真に撮っておくと、次第に位置を変える土星の動きが記録できますね。



国立天文台  
2023年9月中旬 20時頃  
東京の星空